

授 業 科 目		単 位			開講期		担 任 教 員				備 考		
		講義	演習	実験	前	後							
A 類	構造安定特論	2			○		教授	工博	岩	田	衛	休講	
	鋼構造特論	2				○	教授	工博	岩	田	衛		
	鉄筋コンクリート構造特論	2			○		教授	博(工)	島	崎	和 司		
	耐風設計特論	2			○		講師	工博	大	熊	武 司		
	地震防災工学特論	2			○		教授	工博	荻	本	孝 久		
	信頼性設計特論	2				○	教授	工博	趙		衍 剛		
	木質構造特論	2			○		講師	工博	坂	田	弘 安		
	建築基礎特論	2				○	教授	工博	荻	本	孝 久		
	建築施工特論	2				○	教授	博(工)	島	崎	和 司		
	構造デザイン特論	2				○	講師		人	見	泰 義		
	建築生産工業化特論	2											
	リスクマネジメント特論	2			○		教授	工博	趙		衍 剛		
	建築史保存特論	2			○		教授	工博	内	田	青 蔵		
	建築史保存特論	2				○	教授	工博	内	田	青 蔵		
	建築計画特論	2			○		准教授	博(工)	中	井	邦 夫		
	建築計画特論	2				○	准教授	博(工)	中	井	邦 夫		
	建築設計特論	2			○		教授		曾我部	昌	史		
	建築設計特論	2				○	教授		曾我部	昌	史		
	建築設計特論	2			○		教授	博(工)	重	村	力		
	建築設計特論	2				○	教授	博(工)	重	村	力		
	都市計画特論	2			○		教授	博(工)	山	家	京 子		
	都市計画特論	2				○	教授	博(工)	山	家	京 子		
	建築環境特論	2			○		教授	工博	岩	本	静 男		
	建築環境特論	2				○	教授	工博	奥	山	博 康		
	建築環境特論	2			○		准教授	博(環境)	安	田	洋 介		
	建築設備特論	2				○	講師	博(工)	酒	井	孝 司		
	建築設備特論	2				○	教授	工博	岩	本	静 男		
	建築設備特論	2				○	准教授	博(環境)	安	田	洋 介		
	建築設備特論	2				○	講師	工博	寺	尾	道 仁		
	まちづくり政策特講	2			○		講師	博(工)	昌	子	住 江		
	建築批評特論	2				○	講師	工博	田	中	厚 子		
	建築批評特論	2				○	講師		スタンリー・ラッセル				
	神奈川地域学	2				○	教授 教授 准教授	工博 工博 博(工)	内 荻 中	田 本 井	青 孝 邦 蔵 久 夫	複数担当科目	
建築実務実習			4	○		意匠系		内	田	青	蔵	14単位履修しても修了認定単位は8単位	
建築実務実習			4		○			重	村		力		
建築実務実習			4	○				曾我部	昌	史			
建築実務実習			2		○			山	家	京 子			
								中	井	邦 夫			
						構造系		岩	田	衛			
								島	崎	和 司			
						環境系		寺	尾	道 仁			
								鎌	田	元 康			
B 類	建築学輪講		1		○	{	教授	工博	岩	田	衛		
	建築学輪講		1		○		教授	工博	岩	本	静 男		
	建築学輪講		1		○		教授	工博	内	田	青 蔵		
	建築学輪講		1		○		教授	工博	荻	本	孝 久		
	建築学特別実験			2	○		教授	工博	奥	山	博 康		
	建築学特別実験			2			○	教授	博(工)	重	村	力	
	建築学特別実験			2	○			教授	博(工)	島	崎	和 司	
	建築学特別実験			2			○	教授		曾我部	昌	史	
	建築設計特別製図			2	○			教授	工博	趙	衍	剛	
	建築設計特別製図			2			○	教授	博(工)	山	家	京 子	
	建築設計特別製図			2	○			准教授	博(工)	中	井	邦 夫	
	建築設計特別製図			2			○	准教授	博(環境)	安	田	洋 介	

授 業 科 目		単 位			開講期		担 任 教 員				備 考
		講義	演習	実験	前	後					
C 類	応用数学	2			○		講師	理博	酒 井 克 郎		
	応用数学	2				○	講師	理博	酒 井 克 郎		
	応用物理	2			○		講師		白 井 達 也		
	応用物理	2				○	教授	理博	田 村 忠 久		
	実践科学技術英語	1			○		講師		田 沼 智		
							講師		南 田 孝 子		
	実践科学技術英語	1				○	講師		田 沼 智		
							講師		南 田 孝 子		
D 類	学外研修 A			2	○		教授		曾我部 昌 史		
	学外研修 B			2		○	教授		曾我部 昌 史		
他研究科および工学研究科他専攻の科目											

「実践科学技術英語」「実践科学技術英語」は、2013年度以降の入学者に適用。

指導教授

学生は所属する専攻の科目のうちから演習の指導を受ける1科目(自己の最も専門に研究しようとする科目)を選び、研究科委員長の承認を得て、その科目担当の教授によって研究全般の指導を受けること。

この科目をその学生の専修科目と称し、担任教授を指導教授という。

履修方法

1. 指導教授の指導によって、30単位以上を履修すること。その内訳は次のとおりとする。

(1) A類から18単位以上。ただし、建築実務実習は14単位修得しても修了認定単位は8単位。(2011年度以降の入学者のうち修業年限の短縮が認められた者については、24単位以上。)

(2) B類から12単位。(2011年度以降の入学者のうち修業年限の短縮が認められた者については、6単位。)ただし、建築学特別実験と建築設計特別製図は同一セメスターで両方を履修することはできない。

(3) C類およびD類の取得単位は8単位までA類に換算することができる。

(4) また、他大学大学院(神奈川県内の大学院間の単位互換協定校)の授業科目を10単位まで履修することができる。修得した単位は、C類およびD類と合わせて8単位まで、A類に換算することができる。

(5) A類中自己が最も専門に研究しようとする科目の講義は必修とする。なお、B類のその科目に関する輪講、特別実験・特別製図は必修として履修するものである。

2. 「学外研修A」「学外研修B」の履修については、担当教員に確認すること。

3. 長期履修制度に関する所定の手続に従い申請等を行うことにより、修業年限を3年または4年とすることができる。

4. 単位は、1年次修了までに(長期履修が認められた者については、修了前年度までに)20単位以上を修得すること。

5. 本研究科の指定する方法で、修士論文または特定課題についての研究成果の中間発表を行わなければならない。

修了要件

1. 博士前期課程の修了要件は、本研究科に2年次以上(修業年限の短縮が認められた者については、1年次以上)在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文または特定課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。

2. 修士論文または特定課題についての研究成果の審査を申請し得る者は、博士前期課程第2年次以上(修業年限の短縮が認められた者については、1年次以上)に在学し、所定の授業科目について20単位以上を修得し、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。

2014年度 工学研究科 建築学専攻 博士後期課程 教育課程表（2001年度入学者から適用）

授 業 科 目	単 位		開講期		担 任 教 員	備 考
	講義	演習	前	後		
建築都市防災工学特殊研究	2	2	○		教授 工博 荏 本 孝 久	
	2	2	○		教授 工博 趙 衍 剛	
建築都市防災工学特殊研究	2	2		○	教授 工博 荏 本 孝 久	
	2	2		○	教授 工博 趙 衍 剛	
建築構造設計工学特殊研究	2	2	○		教授 工博 岩 田 衛	
	2	2	○		教授 博(工) 島 崎 和 司	
建築構造設計工学特殊研究	2	2		○	教授 工博 岩 田 衛	
	2	2		○	教授 博(工) 島 崎 和 司	
建築都市文化学特殊研究	2	2	○		教授 博(工) 山 家 京 子	
	2	2	○		教授 工博 内 田 青 蔵	
建築都市文化学特殊研究	2	2		○	教授 博(工) 山 家 京 子	
	2	2		○	教授 工博 内 田 青 蔵	
建築都市設計学特殊研究	2	2	○		教授 曾我部 昌 史	
	2	2	○		教授 博(工) 重 村 力	
建築都市設計学特殊研究	2	2		○	教授 曾我部 昌 史	
	2	2		○	教授 博(工) 重 村 力	
建築環境計画学特殊研究	2	2	○		教授 工博 岩 本 静 男	
建築環境計画学特殊研究	2	2		○	教授 工博 岩 本 静 男	
建築都市環境設備学特殊研究	2	2				休講
建築都市環境設備学特殊研究	2	2				休講

履修方法

- 1．学生は自己の最も専門に研究しようとする科目を選び、その演習を担当する教授から研究全般の指導を受けるものとする。
- 2．この科目をその学生の専修科目と称し、担任教授を指導教授という。
- 3．学生は指導教授による演習を12単位、その他指導教授により専修科目または他の科目から8単位以上履修すること。

修了要件

- 1．博士後期課程の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。
- 2．博士論文の審査を申請し得る者は、博士後期課程において、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。